

## 春岡村の伝説

天保八年

### 長芋盗賊事件 島村恭一家文書

春岡村のお隣、大和田村の名主島村家や浅子家から出てきた古文書には江戸時代、大和田村や深作村周辺で起こった事件や揉め事、喧嘩なども記されていました。その中から今回ご紹介するのは…天保八年（1837）幕末の頃、長芋泥棒を捕まえて役人に差し出すように、というお上からのお達しが廻状（回覧みたいなもの）で回ってきました。廻状によると…

「近頃長芋泥棒があちこちで出没している。御取締の吉田左五郎様は、長芋は一年でできる作物ではなく、丹精して育て、しかも年貢に出す作物なので、盗賊を差押え差出すようにと嚴重に仰せ渡されました。

一昨日の十六日夜、宮ノ下村の十兵衛が植えた長芋が盗み取られたので吉田左五郎様へ訴えましたところ、村々で申し合わせてなんとしても差押え圈（囲い）を置き、そこにしておくようにとのことです。近々役人が廻村するからそこへ差出すよう嚴重に仰せになりました。

もっとも、村々の制方などは閑古取り逃がしてしまうこともあるので現場で取り逃がさないようにと必ず伝達するように。

去る十日、盗賊三人を捕まえ囲いへ入れ置きましたが、今後も捕り押さえるよう言われましたので、それぞれの村の小前（土地持ちだが村役のない農民）にも漏らさず申し付けるように。

この廻状は時間を記して早く次へ廻し、ついでの折に返してください。以上」

小深作村 城兵衛 宮ヶ谷塔村 宮ノ下村  
深作村 丸ヶ崎村 下瓦葺村 砂村  
大和田村 堀崎村 巖村  
右村々御名主中 五月十九日受取置申候



※大和田村はかつて「上田村」といっていましたが天正十八年（1590）大和芋を徳川家へ献上したことから大和田村というようになったとか。（武蔵国郡村誌より）ちなみに天正十八年（1590）は徳川家康が関東入国した年です。

挿絵『江戸イラスト事典』

参考『大宮古事拾遺』下村克彦著

『さいたま市博物館研究紀要第四集』

※「名主」と「庄屋」のちがい

農村においては町村の長を「名主」といいました。中部地方から西では「庄屋」と呼びました。名主は世襲のところもあれば指名、年番という村もありました。名主の下には収穫が10石以上の土地持百姓によって五人組がつけられました。10石以下は水呑百姓といわれ、さらにその下に小作人がいました。（参考『復元江戸生活図鑑』）

（平山 由喜）